

「背に腹はかえられぬ」 熟考

国 松 靖 弘

最近気になっていることわざがある。「背に腹はかえられぬ」である。五臓六腑ごつぽふのおさまる腹は、背と交換できないという意味から、「さし迫った苦痛を回避するためには、ほかのことを犠牲にしてみしかたない」という意味で使われる。以下、この言葉にまつわる、私の気になるいくつかの事例を紹介したい。まず一つ目は、あるうなぎ店の話である。

九月に入ったというのに依然として暑い。これはもはや残暑を通り越し、日本が熱帯酷暑の国となった証である。

こう暑いと、やはりうなぎが食べたくなる。うなぎの名店の場合は作り置きしないので、かば焼きが登場するまでたっぷり四十分はかかる。この間、白焼き、う巻き、うざ

く、肝焼きなどを肴に酒を愉しむわけだ。そして最後にうなぎが登場。ふんわりとした食感とたれの香ばしさ、そして絶妙の加減で炊かれたごはんとハーモニー——まさに至福のひとつときである。

ところが、この夏の風物詩に今年には異変が起きている。うなぎの高騰だ。養殖に使われるウナギの稚魚、シラスウナギの漁獲量が激減していることから、ウナギの取引価格が高騰。その結果、小売価格は去年より二割から三割近く高い水準が続いているようだ。

こうなるとうなぎ店への客足も減り、閉店に追い込まれる店も出ている。こうした中、神戸のうなぎ店が新たな試みを始めた。「豚のかば焼き丼」である。豚肉をうなぎのかば焼きのたれで焼いてごはんに乗せたどんぶりを考案し

たのである。

値段はうな井の一三〇〇円に対して半額の六五〇円で、今ではうな井よりも多くの注文があり、まさにうなぎ登りの人気になっているらしい。

店のおかみさんは、

「うなぎ店で豚を売ることに、最初は抵抗がありました。背に腹はかえられない状況でしたから売り出しました。そうしたら、お客さんに喜んでもらえました」と

と話していた。

夏の書き入れ時に客足が激減したら、それこそ死活問題。背に腹はかえられない状況下での決断だったわけだ。確かにながき店で豚を出すのに抵抗や不安があったであろう。だが私は、これは素晴らしい対応だったと感じている。なぜなら、背に腹はかえられない状況なので踏み切ったわけだが、同時に自分の店の利益だけでなく、何とかしてお客さんに手軽に味わってほしい、店に来てほしいという顧客志向を感じるからである。だからこそお客さんもそれを支持し、人気メニューになったのだと思う。この話を知った時、とてもすがすがしい気持ちになったものだ。

一方、今年六月、背に腹はかえられぬ事を理由に、日本政府によりとんでもない決定が下された。福井県大飯原発の再稼働である。

大飯原発の再開について現地の住民は賛成の方が多く、周辺住民は反対の方が多かった。雇用確保や補助金などの問題があり、現地住民が背に腹はかえられぬ決断をしたことは理解できる。また、周辺住民が原発の危険性から反対する気持ちも、これまたよく理解できる。

しかし、日本政府は関西電力管内で八月、一四・九%の電力不足に陥るといふ事を理由に、深く検証もせずただ安直に決定を下したのである。既定路線に乗ったいわば「政府と関電の背に腹はかえられぬ談合」だったのである。

その証拠に夏が終わってみれば、再稼働しなくても電力は足りていたという茶番の事実が判明したのだ。東京電力福島第一原発の事故を目の当たりにして、我々は原発が抱える途方もない危険性を肌で感じ、原発を減らすことを真剣に考えるようになった。その恐ろしい原発依存社会に戻すかのような決定を平気で下す、大局観が欠落した政府は、早急に交代させる以外に方法はない。

ところで私は昨年、この「随筆手帖」において「原発とアスベスト—この似て非なるもの」というエッセイを書かせていただいた。その同時期、「アスベスト除去見積比較ネット」というサイトを開設した。

このサイトは、日本初のアスベスト除去に特化した見積比較サイトである。施主、工務店、リフォーム会社、不動

産会社などからの依頼を受け、優良なアスベスト専門業者を無料で紹介するサービスを展開している。ご希望があれば、複数業者の見積もりを比較検討し、最適な業者を選ぶことが出来るのである。

さて私がこのサイトを立ち上げた理由だが、それは四年前にさかのぼる。当時、私の父が所有していた賃貸物件の建て替えをすることになり、その建物のアスベスト除去を突然任されたのだ。

三社から見積もりを取ったのだが、その金額の差にわが目を疑った。

「何と一〇三万円もの差があったのだー」

三五〇万円ほどが相場の工事だったのだが、まさかこれほど差がつくとは夢にも思わなかったのである。

そしてその中のある業者の方より、「分離発注」の提案を受けたのである。すなわち、アスベストと解体工事を分離して、アスベスト業者に直接発注することで、一〇〜二〇%のコストダウンが可能になるという内容であった。最終的にこの業者さんにお願しい、最安値で工事は無事終了したのだった。

私は、この「分離発注」という素晴らしい考え方を知ったのと同時に、なぜ本格的なアスベスト工事に関する「見積比較サイト」がないのだろうとの疑問を持った。比較サイトがあれば便利だし、分離発注も進むのではないかと考

えたのだ。

その後勉強すればするほど、アスベストの危険性や人類にとって地球規模の大問題であることを認識し、このサイトを立ち上げることを決心したのである。

開設して一年、おかげさまで毎日のように問い合わせや申し込みを頂いている。適正工事の実施に微力ながら貢献させていただき、大いにやりがいを感じている。だが、最近次のような事例が二件続けて発生したのだ。

ある不動産会社から、三階建ての鉄骨建物のアスベスト除去と解体工事の見積依頼があった。当サイト登録の業者から現地調査に基づく適正な見積もりを提出したのだが、何とその半額で請け負う業者がいると言うのだ。この話を聞いた途端、

「アスベスト違法業者だ！」

と確信した。なぜなら、この手の話はさほど珍しくないからである。

当方の算出では、産業廃棄物の処理費用だけでも百万円近くの費用がかかり、とても半額で請け負えるものでないことは明白なのである。ではどうして半額が可能かと言うと、違法解体の場合はアスベストが飛散しないための養生の手間を省いたり、特別管理産業廃棄物として処理しなかつたりして費用を浮かせるわけだ。

最悪の場合は役所に届け出をせず、闇で解体するケース

さえある。実際、最近も都内の解体業者が無届けで解体工事を行い、その下請けの産廃業者がアスベストを不法投棄し、逮捕される事件が起きている。

「数百万円も違うと不動産売買価格に影響します。背に腹はかえられないんですよ」

と、その不動産会社の社長は言い、結局その違法業者に発注したのである。

同様の話が施主から直接見積依頼が来たケースでも発生している。その施主も、

「背に腹はかえられないですよ、数百万も違っちゃ。万一アスベストが飛散しても業者の責任ですよね」

と同様の物言い。

この両者は共に、根本的に考え方が間違っている。まず前者のケースだが、この物件はJRの駅から近く、民家が隣接している地域にある。万一アスベストが飛散してしまつたら、周辺住民の方々に取り返しのつかない被害が及んでしまうのだ。そうなつたら、工事は差し止められ、多大な損害賠償費用が掛かり、何よりもこの会社の信用は失墜し、倒産してしまふであらう。

後者のケースは、この施主が「発注者責任」という事を全く理解していない。すなわち、違法業者を選び発注したのはその施主であり、何か問題が起これば当然ながら施主も一定の責任を負うことになるのだ。しかも、前者のケー

スと同様、万一アスベストが飛散してしまつたら、工事は差し止められ、信用を無くし、予期せぬ莫大な費用が掛かることになるのである。

背に腹はかえられないということを隠れ蓑に、「自分の利益しか考えない」から、このような対応をしてしまうのである。

しかし、これとは真逆の話もあるのだ。先日富山県のある男性から電話を頂いた。この方の自宅近くの小学校でアスベストの違法解体が行われているというのである。行政側は、二〇〇六年のアスベストの法律改正時に調査したと言っているが、その報告書がないとのこと。相手が行政でもあり、対応に苦慮してのご相談であった。

私は、解体工事の事前調査として、アスベスト調査が義務付けられているので、調査報告書を出すべきであると言いつけること。その上で、報告書がないのなら、早急に調査をすべきであると要求すること。労働基準監督署にも即刻掛け合うこと、などをアドバイスさせて頂いた。

この方の信念と行動、そして恐らくそのほか多くの方々のご尽力により、北陸中日新聞や読売新聞がこの行政の対応不備を記事として大きく掲載。行政側もこの問題は「背に腹はかえられない」という判断を下し、その結果、解体工事は一時中断し、アスベストの再調査をすることとなつ

たのである。

以上長々と述べたが、そろそろ総括しよう。「背に腹はかえられぬ」ということわざには何の罪も問題もない。誰しもどうしようもない状況は訪れる。そのときにどう対応するかで、その人や組織の価値が決まるのだ。

既述したように、大飯原発再開を決めた日本政府、アスペスト違法解体を暗に認めた施主や不動産会社は、事の重大さや深刻さを熟考することなく、自分の利益を最優先し、愚かな決定を下した。

うなぎ店のおかみや富山の男性は、自分の利益だけでなく、他者の利益も考え、事態打開の方法を考え出したのだ。実際、富山の方は、私にこう語った。

「私は先行きそう長くないからまだいいんです。でも小学生はこれからの人生ですよ。アスペストが飛散して中皮腫になったら、取り返しがつかないんです」

これから先、私たちは個人、家族、会社、組織、国、国際社会などのあらゆる局面で今まで以上に「背に腹はかえられぬ」状況に陥ることが多くなるであろう。

しかし、この事例の方々のように、決してあきらめず、少しでも事態をいい方向に持って行こうという気概と知恵が我々人類にはある。今回の考察を通じて、私自身もアスペスト除去見積比較サイト運営による適正工事の推進を始

め、さまざまな分野で、微力ながら尽力させていただく決意を新たにしたのである。

さて、暑い中いろいろと考え抜いたので、頭が少々ヒートアップしてしまった。そろそろ秋上がりと共に、なじみの蕎麦屋で蕎麦を手練りたくなってきた。

「秋上がり」とは、冬に製造した酒が夏を越え、秋になって新酒のあらさが消え、まろやかさと奥深さが見え始めてきたお酒のことである。この秋上がりと共に、こよひは秋の気配風情を感じることとしよう。

(食文化研究家 作家)